



QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 北里 耕亮(熊本県 小国町)

第 20 号 since2005.6.1

発行日 2016.3.18 (金)

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：大分県日田市上津江町

<編集責任>

熊本県・小国オフィス

日ごとに暖かさを感じられるようになりましたが会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。第20号の九州森林ネットワーク通信(QFN)をお届けします。

本号では、小国町で開催しました第20回九州森林フォーラム「山へ向かう人々の群像～IUターン者の活躍と山村の未来～」の報告を掲載しております。藤山浩氏から「田園回帰1%戦略～地元にと仕事を取り戻す～」と、江藤理一郎氏から「小国町における移住定住の状況について」基調講演をいただきました。その後のパネルディスカッションでは2名の方に事例報告をいただき、多くの現場からの声が聞かれました。今回は初の試みとして、基調講演の前日に移住して各地域で活動している方々からの本音トークや、参加したみなさんと一緒にワールドカフェを行い、盛況のうちに2日間のフォーラムを終えることが出来ました。この場を借りて、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

5月20～21日には会員向けプレミアム研修会を開催致します。今回は、「広葉樹資源の活かし方」をテーマに熊本県天草地域を訪れる予定です。広葉樹の活用や森林組合の取組・施設の見学・意見交換などを予定しています。

多数の会員の皆さまの参加をお待ちしています。

今回のフォーラムで記念すべき第20回目を迎えました。会員みなさまの協力のもと活動を行ってまいりますので、これからもご協力よろしくお願いたします。



(株)トライ・ウッド

日田市内のイベントにて

(写真左)

「木材」をテーマにしたイベントにて、加工板の「かんなくず」が大盛況。

巻きついたり、もぐり込んだり…。

【目次】

第20回九州森林フォーラム
の報告 P.2～P.4

お知らせ P4



パネリスト : 田村 哲 氏(島根県邑南町役場 定住促進課)
上垣 嘉寛 氏(NPO法人 自伐型林業推進協会 事務局長)
オブザーバー : 藤山 浩 氏、江藤 理一郎 氏



田村氏

上垣氏

<フォーラムで周知できた内容>

- 田園回帰が大きな現象になりつつある。(特に若い世代)
- 山村地域を維持するためには、一年間に人口の1%の移住者を受入れることを目指せば良い。
(一度に多くの移住者を迎えても、都市で起きている高齢化問題を繰り返すだけ。地道な活動を。)
- 地域循環型の経済を発展させるためには、1家庭当たりの支出の1%程度の金額を地域に戻すだけで良い。
(例えば地域のパン屋さんで買い物をすることが、地域に雇用を生むことに繋がっている…など)
- 地域へ定住できず都市へ再移住する人も多い。
- 移住にとって最大の問題は仕事であり、現在の受入れ先では『林業』が非常に大きなウエイトを占めている。
- 林業の衰退と、山村地域の衰退は比例状態にあり、山村地域発展のためには、林業の発展が必要不可欠である。
- 林業の新しい形として、自伐型林業、兼業林業が挙げられる。
- 林業のイメージが、移住者と林業従事者に相違があり、一般の人々に実際の林業の姿を宣伝する必要がある。
- 移住者に対しては、相談窓口の設置など行政が中心となった細やかなサポートが必要である。

事務局からのお知らせ

■第20回記念「九州森林フォーラム記念誌」の配布について

昨年11月の開催で、九州森林フォーラムは20回を迎えることが出来ました。
それを記念し、これまでの歩みを記した資料集を作成しましたので配布します。

■会費の納入について

本法人は、会費とフォーラム開催時に助成金等をいただいて運営されています。会員のみなさまにおかれましては、年会費の納入について再度ご確認ください。

■会員向けプレミアム研修会について

5月20日(金)～21日(土)に熊本県天草市において会員向けプレミアム研修会を行います。多数の会員の方々の参加をお待ちしております。詳細は後日ご案内致します。(予告は別紙にて)

<ワールドカフェ円卓ボードへの記入内容・キーワード>

- 移住地はツテ・紹介の要因が大きい。→全く縁のない地域とはマッチングしにくい。
 - 移住者(地域起こし協力隊、等)の1/3は5年以内にいなくなる。主な原因は、仕事がない為である。
 - 家賃・食料・給料が安くても田舎なら大丈夫。
 - 行政に…役場の役割・サポート、移住にあたっての窓口が欲しい。
 - 住居・人・仕事の三つのマッチングがカギ。
 - お金の話、「何が必要か」…モノ?ココロ?～ロマンスではいけない!～
 - 価値観の違い…自己主張ではなく相互理解できる仲間を。
 - 移住する・しないとは別に、山村に遊べる借山林を増やして欲しい。(レクリエーションできるような)
…山村と都市をつなげるものとなるのでは。
…都市から離れる=移住ではなく、繋がるための1クッションとなるのでは。
 - 山村毎にコミュニティ色が異なるため、移住者が望む“山村暮らし”とのミスマッチが起こる場合がある。
 - 移住者は理想を持って移住を決意するが、その理想を実現しようとするときに地元の方との対立を生む場合がある。
 - 仕事をネットで検索。…移住希望者が検索しきれない、埋もれたチャンスがあるのではないか。
- 山村から都市への移住では“進学”や“仕事”など、目的が明確なのに対し、都市から山村への移住は“暮らし方”という大きな枠で目的を持つ場合が多く、移住前の生活との関連性が高い場合が多い。
 - 移住者の中には地元の方とのトラブル(価値観の違い)があったという話もあった。このことから移住者は、地元の方が長年築いてきたモノに対して慎重にならなければならない面もある。
 - 林業でいう“山”と、一般の方々が求める“山”の印象は異なっているため、理想と現実のギャップに直面する移住者は多い。
 - 会の終わりには基調講演講師よりコメントをいただいた。藤山氏は移住には山村という“環境”の魅力だけではなく、同じコミュニティに存在する“人”の存在が大きいと語った。

11月28日(土) ～基調講演&パネルディスカッション～

基調講演講師



(2) 藤山 浩氏(ふじやま こう) <写真左>
島根県中山間地域研究センター 研究統括官
演題「田園回帰1%戦略~地元の人と仕事を取り戻す~」

(1) 江藤 理一郎氏(えとう りいちろう) <写真右>
一般社団法人 学びやの里事務局長による
演題「小国町における移住定住の状況について」



パネルディスカッション

コーディネーター：佐藤 宣子 氏(九州大学大学院教授)

第20回九州森林フォーラム in 小国報告

「山へ向かう人々の群像」～IUターン者の活躍と山村の未来～

NPO法人九州森林ネットワークは、これまで九州の町と山々を繋ぎ、持続的な山村と林業について、地域材を活用した家造りについてなど、多くのテーマでフォーラムを開催してきました。記念すべき第20回目となる今回のフォーラムでは、「山へ向かう人々の群像」をテーマとして、将来、半数近い自治体が消滅すると警告される中、「人口の問題を人々が暮らす地域のあり方と共に考える」という藤山浩氏の基調講演。そして、いろいろな地域の事例や移住された方からの体験談が報告されました。

■ 参加者数

フォーラム参加者 83名 交流会参加者 25名

11月27日（金） ～本音トーク大会&ワールドカフェ～

■ 本音トーク大会

「お仕事・暮らしはどうですか」



理事長あいさつ：左
福沢さん（大分県日田市に移住）：右



宮坂さん（熊本県小国町に移住）：左
井さん（熊本県南小国町に移住）：右



高野さん（宮崎県諸塚村に移住）：左
及川さん（鹿児島県日置市に移住）：右



■ ワールドカフェ

会場のみなさんも参加して

■ 参加者数

フォーラム参加者 83名

交流会参加者 25名